

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	A-330	19-098
滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門		
題名 (原題/訳)		
Smoking, alcohol use, socioeconomic background and oral health among young Finnish adults. 若年フィンランド男性における喫煙・飲酒・社会要因と口腔衛生との関連		
執筆者		
Tanner T, Pääkkilä J, Karjalainen K, <i>et al.</i>		
掲載誌		
Community Dent Oral Epidemiol. 2015 Oct; 43(5): 406-14. doi: 10.1111/cdoe.12163.		
キーワード		PMID
虫歯、口腔衛生、疫学		25912378
要 旨		
<p>目的：1990年代前期に生まれた若年男性において、喫煙・飲酒・社会要因と口腔衛生との関連を明らかにすること。</p> <p>方法：2011年フィンランドの徴兵者向け健康診断を受検した男性 13,564名、女性 255名(平均年齢 19.6歳)のうち、口腔衛生スクリーニングプロジェクトを受検した男性 8539名を対象とした横断研究。歯科検査において虫歯・治療済みの歯・抜けている歯の個数、検査時の歯周ポケット出血数 (BOP: 6回中 3回以上)、地域歯周疾患指数 (CPI: 2以上)を調査し、質問紙を用いて喫煙 (非喫煙・毎日 1~5本・毎日 10本以上)、飲酒 (非飲酒または月 1回未満飲酒・月 1回以上週 1回未満飲酒・週 1回以上飲酒)、歯のブラッシング頻度、自身および両親の学歴、最後に歯科受診した時期を調査。以上の項目をまとめて一般化混合線形モデルに投入し駐屯地を変量効果として解析。</p> <p>結果：月 1回以上飲酒者は対象者の 80.9%を占めた。喫煙頻度、歯のブラッシング頻度は BOP および CPI と有意な負の関連がみられたが、飲酒頻度とは関連をみとめなかった。対象者自身の学歴は BOP と負の関連をみとめた。自身および母親の学歴が低いほど、また喫煙頻度が多いほど、虫歯・治療済みの歯・抜けた歯を有するリスクが高値であった。</p> <p>結論：若年者において親と自身の低学歴、喫煙は口腔衛生不良と有意に関連した。特に低学歴層において口腔衛生のヘルスプロモーションが必要であると示唆された。</p>		